

国分寺市障害者計画実施計画の実施状況について(平成28年度)
国分寺市障害福祉計画の実施状況について(平成28年度)

— 答申書(案)に係る各委員からの意見(概要) —

答申書(案)に係る意見(概要)

項目	意見の内容(概要)	委員名
重点事業4「障害児発達支援に向けた取組の充実」	早期発見と児童の発達を促すという意味では家族の理解は大切だが、「受容を促す」ことは支援体制の強化になるのか。この時期に障害を受容できる保護者は少なく、それよりも家族支援が大切。	阿部委員
	受容は大切になるかもしれないが、受容に至っていない保護者のプレッシャーにもなる。受容という言葉は良い意味で使われないことが多くなっている。保護者の障害に対する理解を進めることが大切。	会長
重点事業5「障害のある人の就労の場の拡大に向けた取組の推進」	「障害の特性に応じて福祉的就労を含めた多様な就労の場の確保に取り組まれない」という部分の表現がよくわからない。	青柳委員
	具体的な対象があるのであれば「〇〇など多様な就労」という形で就労形態を書いた方がよいし曖昧なのであれば削除しても良い。	会長
重点事業7「サービス人材の確保」	当事者団体の活動の推進は大事だが、サービス人材の確保の項目の中でメインになるのか。	阿部委員
	一般的な前提として、すべての事業所において、人材が来ない。質の高いサービスを提供するためには、人材が必要ということを含めてやっていくべきというのが第一義的な意味だと思う。	会長
4 障害福祉計画成果目標別実績評価について	成果目標②「障害者地域自立支援協議会等を活用しながら」とはどう活用するということか。	岡本 アドバイザー
全体	幼児期から学齢期へのスムーズな移行、学齢期における小中学校、高校、大学及び就労の各ステップごとの移行における連携など、全体的に教育との連携の部分が弱い。	柴田委員
	全体的に地域自立支援協議会を活用と書かれているが、具体的にどのように活用していくと解決するのか。	阿部委員
	地域自立支援協議会のどんな部会を使ってどんな仕掛けの中でやっていくかを少し考えなければいけない。	会長